

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK18278
SK18279

③施設名等

名称：	児童養護施設 浦上養育院
施設長氏名：	吉永 光子
定員：	41名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	長崎市石神町14番48号
T E L：	095-844-4055
U R L：	http://www.ans.co.jp/u/uragamiyouikuin/
【施設の概要】	
開設年月日	1874年8月15日
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人うみのほし会
職員数 常勤職員：	24名
職員数 非常勤職員：	1名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（ウ）	准看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	小学校教諭1種
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	中舎13室、地域小規模
施設設備の概要（イ）設備等：	グラウンド
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】 「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とのカトリックの愛の精神に基づき、聖母マリアに倣い、社会の必要に応え、人々にキリストの愛をもたらすよう努めます。この理念に基づき、児童養護施設においては、児童福祉法の理念に則り、家庭において適切な養育を受ける事が出来ない児童を家庭に代わって養育する。その実践にあたっては、カトリックの愛と奉仕の精神をもって育み、児童の必要に応えるよう努める。</p> <p>【方針及び目標】 1、 家庭に代わる場として、子どもたち一人ひとりが十分に愛され、受け入れられていると感じることができるよう努める。 （子どもの声に耳を傾け、その思い、言葉、行いに暖かい理解を示す） 2、 心の傷を癒すための専門的治療（心理療法：カウンセリング他） 3、 健全なる社会人となる素地を築くための教育、学習の充実及び文化、芸術、スポーツ等の諸活動を通して、個性、可能性の伸長をはかる。 4、 自立支援の強化（食事作り、アルバイト体験、職場見学他） 5、 ホーム構成は、少人数の家庭的規模を保ち、全体的には集団生活の利点：強調性、諸行事を通しての協力、助け合い等対人関係について学ぶよう支援する。 6、 家族再統合を目指し、親、親族との関係改善への支援。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の関わりを大切にしている。 ・ 地域小規模児童養護施設、小規模グループケアの取り組みで家庭的な養育を目指している。
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2018/5/8
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2019/3/19
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成27年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

1. 施設の質の向上に向けたリーダーシップの発揮と自己研鑽の努力

施設長は、養育・支援の質の現状について、職員が作成する支援記録にアドバイス等を記載し、次に繋がるよう指導している。また、地域の現状を伝え、犯罪などに巻き込まれないよう警察署から話を聞く時間を設けている。更に、空き巣対策として、子どもたちにしっかりと鍵をかけるように指導している。職員間での支援に関する検討会は、グループワーク方式であり、それぞれに意見等を出し合って内容を深く理解するよう工夫している。また、各職員の専門性に合わせて、外部研修を受講するよう促しており、受講した職員は研修内容を職員間にフィードバックしている。

施設長は施設長会には必ず参加する他、職員と一緒に研修受講している。また、施設長は自ら養育・支援の質の向上に向け、福祉施設士の資格を取得しており、まさしく職員の模範となるよう自己研鑽に励んでいることが確認でき、特筆すべき点と言える。

2. 子どもの「最善の利益」に叶う将来を見据えた自己決定の支援

進路について、アセスメント時に子どもと一緒に将来について話し合っており、自立支援計画に加筆している。また、職員は子どもの能力を見出し、子どもが将来をイメージしやすいよう、職員の実体験を交えながら進路の具体例を話している他、娯楽室に進路に関する資料や本などを置き、子どもたちは自由に読むことができるよう配慮している。

高校進学、高校卒業程度認定試験、職業能力開発校進学の場合は措置延長の手続きなど、その子に合った進路を選択している。

進路について、保護者や学校、児童相談所の意見を聞いており、学費の工面に関しては施設が保護者や関係者、支援団体などに相談している。特に学費を理由に子ども自身が進学についてあきらめないよう、奨学金やNPO団体の支援事業、身元保証人確保対策事業などの仕組みを子どもに情報提供しており、本人にとっての「最善の利益」を叶えるよう支援していることは特筆すべき点である。

3. 親子関係の再構築に向けた支援

施設では入所が決定した親子に、児童相談所との連携を説明し、信頼関係が構築できるよう図っている。主任児童指導員が、家庭支援専門員であり相談窓口でもあるため、保護者の不安な思いについて相談を受けたり、子どものために必要なことを一緒に考えていると共に今年度は施設長も親子関係再構築の支援体制に加わっている。

年1回、保護者会を開き、家族交流と共に会話する機会を設けていることは本施設の特長である。

家庭支援専門員と担当職員が中心に、親子関係の再構築に向けた見立てを行っており、経過は会議等にて、全職員へ報告し状況を共有している。

親子関係再構築に向けて、保護者の状況について児童相談所と密に連絡を取り、必要に応じて保護者との面談を行い、子どもとの面会や外出など親子関係の再構築について注意事項を伝えている他、「保護者の皆さんへ」と題したプリントも渡している。また、保護者は誓約書を提出している。

面会や外出、外泊後は、保護者に子どもの様子を尋ねることで、主任児童指導員は保護者の思いを汲み取っており、保護者との対話を大切に親子関係の再構築に向けた支援に努めていることは特筆すべき点である。

◇改善が求められる点

1. 中・長期計画の策定

課題や問題点、今後の予定などは、事業計画書、育成計画書に記載しており、施設長や担当職員は、その都度会議やミーティングなどで連絡し、必要に応じて話し合っている。また、施設での生活改善を目的とした改築や新築に際しても、子どもたちの声を集める努力が確認できる。

ただし、中・長期計画が策定されておらず、正確な情報が全職員に周知されていない事例もある。数年かかる計画を具現化するためには、中・長期計画を明文化し、職員と共有できる環境づくりが望まれる。

2. リスクマネジメント及び防災対策の強化

昨年度から事故防止災害対策委員会を設置しており、委員会活動が始まったところである。安全確保や事故防止に関する内部研修は行っていないものの、遊具点検の研修は受講しており、管理表を作成し安全管理に努めている。コンセントのチェックは各棟の宿直者が行っている他、火災原因のプラグやコンセント等のチェックは営繕担当の職員が厳しくチェック指導している。

現在のヒヤリハット報告書は事故報告が混在しており、今後は分別し整理することが望まれる。安心・安全な養育、支援のために、今後は事故防止災害対策委員会の活動をはじめ、組織としての更なる取組み期待したい。

更に、災害時の対応体制は規定に定めており、年1回、消防署立会いの避難訓練では、終了後に消防署からの評価と講話がある。子どもが遠方に実習や就職試験に出掛ける時は、プリペイドカード式のスマホを所持するよう指導しており、連絡を取り合うルールがあることが見てとれる。ただし、子どもや職員の日常生活における災害時の安否確認については、連絡網はあるものの安否確認方法等の検討はない。今後の検討・取組みが望まれる。

3. 退所者のアフターケアの体制づくり

施設では、子どものニーズを把握しリビングケアの支援を行っている。自立支援は、子どもの能力や背景に応じて詳細に計画し、洗濯やアイロンがけ、買い物や料理など一人暮らしに向け訓練指導している。

退所する子どもに、退所後に不安や悩みがあったとき、施設に相談できる旨を口頭のみで伝えているため、文書を配付することも検討が望まれる。

退所者が起こした問題を警察や行政、病院などと連携し、アフターケアした事例があり、対処の詳細はアフターケアの記録に記すると共に、退所後の生活変化やトラブルは、会議にて職員は情報共有している。現在、施設では、アフターケア専門の配置の必要性を感じている。

退所後も不安や悩みを相談できる場として機能し、社会で生活する自信を付けて、生きていけるよう支援する体制づくりに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回は、「内容評価」と「共通評価」で前回からすると少々難しく感じた。特に共通評価については、職員一人ひとりがしっかりと評価することが困難だったようだ。これはある意味、管理職にある者の責任だと感じたところである。会議等の中で、様々なことを伝えていたつもりだが、職員に浸透していないのだとわかった。これも大きな課題だと認識できた。

自分たちが行っている子どもへの関わりを高く評価して頂き、大変ありがたく思う。今後の励みになる。ただ、これで「よし」とせず、継続と次につなげていく努力を続けなければと思う。

文章化された評価を見ることで、課題がはっきりとわかる。全部を取り上げることは難しいので、優先順位を考えて取り組みたい。今度こそ中・長期計画から手を付けていきたい。

子どもたちのアンケート調査結果から、子どもたちは職員から大事にされていると感じるとの結果が高かったことは、嬉しく思う。これからも創立者の精神を大切に、子どもたちの支援に当たりたい。

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 「自分を愛するように隣人を愛しなさい」というカトリックの愛の精神に基づいた理念と家庭において、適切な養育を受けられない児童を家庭に代わって養育するという基本方針は、パンフレット、ホームページに掲載している。 また、事業計画書、育成計画書などにも明記しており、職員会議で読み合わせ、職員の理解を深める取組みが確認できる。更に、施設長は院内での行事や保護者会にて、カトリックの愛と奉仕の精神で子どもたちに接した創立者のエピソードやコメントを引用した挨拶を心がけおり、子どもや保護者への周知も図っている。 年間を通して実施している「心を育てる」という取組みでは、毎月のテーマを子どもたちが決めており、「暴言ははかない」「他人が嫌がることはしない」などが掲げられていることから、子どもたちにも運営理念や基本方針が浸透していることがわかる。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 社会福祉事業の状況や動向などは、新聞を読んだり、行政主催の会合に出席するなどして積極的に情報を取り入れ、それを職員と共有するよう心掛けている。また、法人が年2回開催する拡大顧問会議で報告される高齢者福祉や児童福祉など各種別の情報も参考にしている。 近年の地域社会における子どもの減少を鑑み、施設長は定員の見直しを検討すべきかと思案中ではあるが、同施設では子どもの数が、ここ数年ほぼ横ばい状態であることは把握しているものの、施設入所を必要とする子どもの推移の分析までは行っていない。今後の情報収集と分析に期待したい。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

節電、節水、備品を大切に扱う、無駄使いはしないなどの取組を職員や子どもに徹底するように働きかけている。子どもが必要とするものは、購入するよう心掛けているが、購入品記載帳に記録し、購入の重複、無駄な出費を避ける取組が確認できる。
 理事会では、経営状況や課題などの報告を行っており、今後は課題の改善策などの意見交換を通して、施設の経営課題の解決・改善に繋がることを期待したい。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

課題や問題点、今後の予定などは、事業計画書、育成計画書に記載しており、施設長や担当職員は、その都度会議やミーティングなどで連絡し、必要に応じて話し合っている。また、施設での生活改善を目的とした改築や新築に際しても、子どもたちの声を集める努力が確認できる。
 ただし、中・長期計画は策定しておらず、正確な情報を全職員に周知していない事例もある。児童養護施設を取り巻く状況の変化は目まぐるしいものの、施設としての目標を達成するためには、中・長期計画を明文化し、職員と共有する環境と計画を達成するための仕組みづくりに期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度計画として計画していない想定外の大掛かりな補修工事が発生したため、今年度中の実施が困難なものは来年度の事業計画とするなど、計画の見直しを行っている。
 ただし、中・長期計画を策定していないため、単年度の計画に中・長期計画の内容を反映できない状況である。今後、中・長期計画を明文化すると共に単年度計画と連動する仕組みづくりが望まれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。	第三者 評価結果
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

事業計画は、担当職員の参画やアンケートの集約を反映しながら策定している。また、“育成計画書”と称するファイルを各職員に配付している。ファイルには、養育・支援に関する資料の他、事業計画の中から職員に関係ある文書もあり、新しい情報を差し替えるなどして活用している。この“育成計画書”は、オレンジのファイルに収められていることから“オレンジの計画書”として、職員は認知しており、日々活用している。ただし、“オレンジの計画書”は、育成計画という性格上、子どもの支援に関する内容が主であるため、施設工事などハード面の計画は掲載しておらず、事業計画の周知が徹底していない部分が見受けられる。今後の検討・改善に期待したい。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

事業計画に保護者から興味を持ってもらうための工夫として、行事計画などを玄関に掲示し、自由に見られるよう工夫している。また、保護者会では、子どもの生活に関わる事業計画を説明し、子どもには、その都度連絡や説明し、必要に応じて意見を聞くなど、事業計画への理解と周知を図っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

前回の第三者評価の気づきだったPDCAサイクル構築による体制整備に着手し、ケース検討会を立ち上げるなどPDCAに基づく養育や支援に取り組んでいる。育成記録は、職員の間で記入に関する差異があったが、主任と心理士が記録文章をチェックし、不足部分を職員とともに見直した上で施設長に提出するというシステムを作った。この取組みにより、記録のコツやポイントが理解できた職員が多く、育成記録が読みやすくなったことが確認できる。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

前回の第三者評価をもとに全職員参画によるマニュアルの改善に取り組んでいる。育成計画の書き方マニュアル、防災マニュアル、台風や自然災害時のマニュアル、施設内の各棟のマニュアルなど、さまざまなマニュアルを作り、改善が必要となった場合には、全職員で話し合い見直している。
見直した内容は、マニュアルに書き込み、新年度のマニュアル作成の際に追加するPDCAサイクルの仕組みが確認できる。今後は、見直した日付を記入するなど、更新したことを明確にする工夫に期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。

第三者
評価結果

①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

施設長は運営に重要なことは、職員育成であると考えている。職員会議にて職員に伝えたいことを話していることが、会議録の記録から確認できる。施設長は子どもと職員を守ることを最優先としており、常に念頭に置いて運営に反映するよう努めている。また、職員が施設長を訪ねる時は緊張し、反省していると考え、次のアイデアや対策などアドバイスすることとしている。
更に職員のキャリアや性格などによって、言葉のかけ方に配慮している。
施設長が不在の時には主任に依頼しており、外出先から指示している。ただし、不在時の権限委任を明確化していない。今後、明文化することが望まれる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、定期的に全国社会福祉法人経営者協議会(以降、経営協)主催の研修を受講し、施設職員に飲酒運転の禁止を伝えている。また社会保険労務士(以降、社労士)に依頼し、セクシャルハラスメント(以降、セクハラ)、パワーハラスメント(以降、パワハラ)の説明を行っており、講習後のアンケートから職員に説明がわかりやすいと好評であることが確認できる。子どもたちはエコ活動や地域清掃等の活動も行っている。
また、施設長は利害関係者との適正な関係を保持し施設運営に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		第三者 評価結果
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設長は、養育・支援の質の現状について、職員が作成する支援記録にアドバイス等を記載し、次に繋がるよう指導している。また、地域の現状を伝え、犯罪などに巻き込まれないよう警察署から話を聞く時間を設けている。</p> <p>更に、空き巣対策として、子どもたちにしっかりと鍵をかけるように指導している。職員間での支援に関する検討会は、グループワーク方式であり、それぞれに意見等を出し合って内容を深めている。また、各職員の専門性に合わせて、外部研修を受講するよう促しており、受講した職員は研修内容を職員間にフィードバックしている。</p> <p>施設長は県・市のみならず施設長会には必ず参加する他、職員と一緒に研修受講している。また、施設長は自ら養育・支援の質の向上に向け、福祉施設士の資格を取得しており、まさしく職員の模範となるよう自己研鑽に励んでいることが確認できる。</p>		
②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設長は書記と連携し、経営の改善に向けて検討している。本館3階には小学生男児が6人おり、母親的存在が必要と考え、女子職員を1人増員している。このことは、全職員が心理面で母親的存在の必要性を理解し、子どものためにも職員のためにも増員することを了承している。</p> <p>また、女子棟担当職員が産前産後休業に入ったため、職員が一人欠員しているが、現状では3人体制で支援することとし、子どもたちに伝え了承を得ている。更に、時々主任が支援に加わるなど工夫していることが確認できる。</p> <p>各委員会は定期的に会議を行っており、虐待防止委員会では、全ての子どもを対象にアンケートを年3回実施しており、対策等を行っていることが会議録から確認できる。</p> <p>施設長は、施設の業務の実効性を高めるため、委員会を設けるなど指導力を発揮している。</p>		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】 施設長は施設運営に必要な人事管理体制を認識しており、職員に明らかにしている。前述のとおり、全職員理解の下、臨機応変に人員配置を行っている。求人はハローワークだけでなく、周囲に声を掛け依頼している。また、来年度の求人も計画し既に活動しているなど、福祉人材が不足する中であっても人員確保に努めている。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】 期待する職員像は“職員の心構え10か条”に記載しており、朝礼時には倫理綱領と交互に隔月で声に出して読んでいる。昇給や昇進は就業規則にて確認でき、昇給等は個人に伝えており、人事院勧告に基づいて昇給等を行っている。年度初めに職員それぞれに個別面談を行っている他、希望者は年度末にも面談している。更に相談は随時対応している。職員面談時に出た課題は、主任とも話し合いながら、リーダー会議にて解決するよう努めている。 「若い人たちを育てる」ために、ざっくばらんに話し合うミーティングは、若手職員が議題の抽出から司会進行を行っており、職員の意向・意見等に基づいて改善に向けて取組む仕組みがあることが確認できる。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	第三者 評価結果
<p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設長は、職員に年度初めに仕事の意向について尋ねており、次年度の人員配置に繋げている。有給休暇消化率は他と比較しても高水準であり、働きやすい職場となるよう努めている。更に、職員を対象に年1回の健康診断の他、歓迎会やお茶会を行っている。新年やクリスマス会、夏祭りの後には打ち上げもあり、ボランティアスタッフも一緒に楽しんでいる。体調不良の職員には休むことを促し、産休・育休の取得や家族の介護ができるよう早出だけの勤務を組む他、本人の希望を把握し、希望休も含め勤務体制に反映している。</p> <p>メンタルヘルスについては、社労士による相談窓口を掲示しているなど、施設長が職員にとって働きやすい職場環境となるよう取組んでいることが確認できる。</p>	
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	第三者 評価結果
<p>① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設長は、職員育成が重要と考えており、今年度から新たな取組みを始めている。これは“自己覚知”(自分のことを知る)に関する自己評価と研修の組合せであり、職員は「自分の強みと弱みについて」という書面に記入し、施設長に提出し、施設長はこれをもとに施設内にて“自己覚知”に関する研修を行っている。</p> <p>研修にて職員は自身の“自己覚知”を抽出し、更に園長に提出し、その内容から次回研修を企画している。この取組は、職員の研修後のレポートでも好評であることがわかる。自身について深く認識することが、支援の質の向上に繋がると期待でき、今後も継続することが望まれる。</p>	

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

期待する職員像は“職員の心構え10か条”にて明確である他、専門資格は事業計画書に明示している。毎年度の事業計画書には職員研修予定一覧表があり、長崎市だけでなく、全国で開催される研修が確認できる。専門技術や専門資格に関わる研修をはじめ、新任・リーダー、基幹的職員向けの研修など、それぞれに職員が学ぶ機会となっている。受講後は研修報告書を作成し、回覧にて全職員に周知する仕組みがある。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修に関しては、新人職員や中堅、リーダーなど職員に合わせた研修を受講できるよう年間研修予定計画を立てている。さらに新任職員等については、主任や臨床心理士が中心になってOJTを行っている。また、各棟のリーダーがスーパービジョンを行う体制が整っており、施設の組織力アップに繋がるよう取り組んでいることがわかる。心理士は子どもとのコミュニケーションで悩んでいたり、支援に行き詰まっている職員に声を掛け、サポートしている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】		
<p>実習生の養育・支援を行っており、平成29年度は18人の実習生を受入れていることが記録から確認できる。実習生にはオリエンテーションを行い、守秘義務等を徹底している。実習生は職員会議に参加したり、子どもが学校へ出掛ける時も一緒に出掛けるなど、一般的な業務をすべて体験できるよう施設側にて配慮している。さらに専門職種に配慮し、保育実習と相談援助実習に分別しプログラムを準備し対応している。</p> <p>プログラムには、一日ごとのスケジュールや担当者が行うべき内容をわかりやすく記している。また、保育についての実習は10日間であるため、子どもと関わって生活を知ることができるよう工夫している。相談援助実習は、さまざまな状況を体験してもらうため、自立支援計画の作成、評価も行っており、職員会議や支援者会議にも出席するなど職員が行っている業務と同様の実践となっており、特長といえる。</p>		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】		
<p>ホームページには、運営理念、行事や事業計画、事業報告、財務諸表や決算書などを公開しており、事務所では開示請求に備え、準備を整えている。施設では年2回広報誌を発行しており、理事各位、ボランティア、自治会長をはじめ、施設主催の行事に外部から参加したゲストなどにも配布している。広報誌は、子どもたちの日々の生活の様子を伝えるばかりでなく、行事の案内、苦情やその対処などの情報も明記しており、周辺の人々に同施設が地域社会の一員であることを伝えたいという施設長の思いを確認することができる。今後は、回覧板の活用など、広報誌が一人でも多くの地域の人々の目に触れるような取組みに期待したい。</p>		

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

職務分担表により事務、経理、取引等に関するルールや権限・責任が明確にしておき、職員にも周知している。経理は、顧問契約を結んでいる会計事務所が毎月監査に訪れ、監査支援等を受けており必要に応じてアドバイスを受け、改善に反映している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

子どもたちの友人等が来た際は、自由に使える部屋を提供するなど遊びに来やすい環境に配慮している。また、敬老の日に、子どもたちの手作りお菓子を地域の高齢者に届けたり、公園の掃除などに取り組んでいる。更に、地域の危険箇所を点検して歩くパトロール隊に加わっており、街灯の増設やバス停の安全確保などの成果を挙げている。ただし、施設長は地域との相互交流が現在の状態では未だ不十分であると感じていることが、聞き取れる。今後は、自治会長に依頼した敬老の日の菓子配りに、子どもたちも一緒に出向くなど、地域の人々との交流を通じさらに良好な関係構築に繋がる取組みを期待したい。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

英語やピアノ教師、幼児向けの“英語で遊ぼう”の他、児童、学生への勉強の指導や係わりなどを目的とした大学生など、多岐の分野でボランティアを受け入れており、受入れに関する基本姿勢を明文化していることは、ボランティアに配付するボランティアファイルから確認できる。また、子どもへの接し方や守秘義務についても明記しており、誓約書を取るなど適切に取り組んでいることがわかる。尚、施設の特性から不特定多数の見学や訪問には対応できないため、地域の学校教育等への協力については、困難と思われる。

(2) 関係機関との連携が確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>病院、学校、美容院、理容院など利用頻度の高い施設・機関の電話番号やボランティアなど関係者の連絡先を明記したリストを作成しており、利用しやすい場所に設置している。市の子育て支援課、生活保護課、長崎県社会福祉協議会（以下、県社協）、要保護児童対策地域協議会（以下、要対協）などとも協力体制を構築しており、卒院者が何らかの問題を起こした場合など、連携を活用して問題解決及び社会復帰へのケアを行っている。</p>	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	第三者 評価結果
<p>① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>施設長は、地域の協議会主催の「子供を守るネットワーク」に参画の他、長崎市社会福祉協議会（以下、市社協）の顧問を務める中から情報を収集し、地域の福祉ニーズを把握するよう取り組んでいる。特に、地域の高齢者支援や生活困窮者支援などの情報交換と現状の把握に努めている。</p>	
<p>② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>地域のニーズを鑑み、定款に生活困窮者の救済を付け加え、相談窓口設置施設として名を連ねるなど、状況に則した取組を行っている。経営協、県社協主催の連絡協議会に参加し、情報収集に努めるとともに、地域の人から相談があった場合は、関係機関の紹介を行っている。</p> <p>災害時には備蓄用倉庫があり、地域の人々にも提供できる備蓄品を確保するなど、地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動を行っていることが確認できる。</p>	

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設では、子どもの基本的人権・権利擁護に基づいた子どもを尊重した養育・支援の実施を目指しており、外部の講師を招き入れて勉強会を開催している。外部研修を受講した職員は、報告書を提出しており、報告書は職員間に回覧し、さらにファイルに収めて全職員がいつでも見られるよう設置している。外部研修で共有したい情報がある場合は、職員会議で発表している。</p> <p>また、人権擁護のチェックリストがあり、定期的に自己評価し、気になるところがある時など、職員会議内で議題とし、子どもを尊重した養育・支援のさらなる理解を図っている。現在、「子どもの思いを聞く」など、具体的な言葉を明文化したマニュアル作成を進めており、今後更なる取組みに期待したい。</p>		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設は、建物の構造上、個室が少ないが、家具の配置やカーテンの使用などで子どものプライバシーを守ろうという工夫がみられる。居室への入室の際は、必ずドアをロックするという決まりがあり、プライバシーを尊重した姿勢が見える。また、ボランティアや職員には個人的な目的での子どもの写真撮影禁止を徹底している他、個人情報の取り扱いに関しては、マスコミからの取材、学校新聞や地区の会報、施設の広報誌などの項目に分けた同意書を作成し、保護者から許可・不許可の確認を行っている。</p> <p>日々の生活における子どもたちのプライバシー保護、羞恥心や権利を守ることは、ミーティング内で話し職員間で共有しているが、マニュアルは整備していない。業務マニュアルの中に、子どもを守るための配慮について明文化すると共に全職員で再確認することを期待したい。</p>		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○
【コメント】 施設の理念や目標を明示した説明をパワーポイントやDVDに作成しており、保護者会の他、民生委員児童委員や外部からの見学者にわかりやすい工夫している。 入所が決定すると児童相談所に施設長等が面接に出向き、施設の内容を本人に説明しており、保護者が付き添っている場合には、保護者にも同様に説明している。児童相談所を通して保護者や本人から見学の希望がある場合にも対応しており、子どもと保護者に向けて必要な情報を提供していることが確認できる。		
②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○
	【コメント】 児童相談所は、施設への入所決定時に本人・保護者から同意書を取っているため、施設では個人情報保護に関する同意書のみ得ている。 保護者は、わからないことを率直に尋ねているため、その都度説明している。理解が困難な保護者には都度対応している他、外泊は第一土曜日を基本とすることが施設のルールであることを伝えている。 入所が決定した子どもには「浦上養育院ってどんなところ？」を手渡し、施設内での生活のルールを説明している。	
③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○
【コメント】 他の施設への措置変更等は、本人に不利益がないよう児童相談所に引き続きを行っている。卒院者から連絡があった場合には対応している他、施設から5月の子どもの日と12月のクリスマスには卒院後2年までの子どもを対象に手作りのケーキや食料品をプレゼントとして送っている。届いた後にお礼の電話があった際には、近況を尋ねたり、来所を促している。窓口は施設長や職員が担当であり、職員は卒院後の子どもから連絡があった場合は、施設長に報告している。 子どもによっては、自身を支援してくれた職員に連絡を取るため、既に退職した職員であっても子どもから連絡を受けた際には施設に報告している。 卒院者にとっては、施設は子ども自身の家庭であり故郷でもあるため、盆・正月は10人程度の卒院者が施設を訪れている。		

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○
【コメント】		
<p>子どもの満足について、不定期ではあるものの個別の聴取を行っている。即時の対応が困難な場合でも、本人から訴えがあったときは別に時間を取り、必ず傾聴している。子どものわがままや特性に配慮しつつ、児童会では意見や要望を毎月尋ね、子どもと関わる時間の確保のため人員配置を変える等の改善を行った例がある。嗜好調査は年2回実施している。ただし、生活全般の満足に関する調査は必要に応じて行っており定期的ではない。</p> <p>施設全体で、すべての子どもの満足を把握するための定期的な調査を行うよう期待したい。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【コメント】		
<p>入所にあたり、子ども・保護者それぞれに対して資料の配布を行っている。苦情解決の体制は整備しており、重要な案件は第三者委員会に伝え問題の解決に努めている。</p> <p>家庭訪問や保護者の面会、年1回の保護者会など保護者と直接話す機会が多くあり、情報を伝えやすい関係である。そのため、施設では保護者や子どもの状態に合わせて、必要なことだけを伝えるなどケースバイケースの配慮を行っている。</p> <p>苦情解決の仕組みについての掲示は施設内の各所に見られるが、第三者委員会については、配布資料の中に記載がない。今後の対応が望まれる。</p>		

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

意見の書き方や相談のルールは児童会で伝え、子どもたちに周知している。意見箱には4月以降、子どもたちが誘い合って投書する新しい動きが見られ、「子どもの意見を尊重する」「苦しいときは話してほしい」という職員の言葉掛けが子どもに伝わっていると考えられる。

職員と個別に話す際は、多目的室や個室を使うなど他の子どもに影響を与えないよう配慮が行われている。子どもや保護者に対し、相談や意見受付についての文書は配付している。ただし、共用空間等への掲示はなく、掲示に関して検討、工夫が望まれる。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもから寄せられた要望や相談に対しては、職員・主任・施設長が対応し情報共有に努めている。時間がかかる際や経過についても子どもに伝えており、施設内の約束ごとに関して児童相談所と連携するなど、検討の姿勢は前向きである。

生活の支援を行いながらコミュニケーションを密に図ることで、子どもは自分の考えや希望を周りの職員に伝えやすくなっており、意見等が出た時の記録や手順はヒヤリングから確認できる。

ただし、相談・意見の記録方法や対応策、報告の手順に関するマニュアルの作成までには至っていない。全職員が統一して、手順を理解し対応するためにもマニュアルを整備し、整備後は見直しを重ねていくことを期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

昨年度から事故防止災害対策委員会を設置しており、委員会活動が始まったところである。現在のヒヤリハット報告書は事故報告が混在しており、今後は分別し整理することが望まれる。安全確保や事故防止に関する内部研修は行っていないものの、遊具点検の研修は受講しており、管理表を作成し安全管理に努めている。コンセントのチェックは各棟の宿直者が行っている他、火災原因のプラグやコンセント等のチェックは営繕担当の職員が厳しくチェック指導している。安心・安全な養育、支援のために、今後は事故防止災害対策委員会の活動をはじめ、組織としての更なる取組み期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症予防の管理体制は施設長を責任者としており、新聞やニュースなどから情報収集し、予防対策を職員に周知している。感染症対策として、マニュアルを整備している他、准看護師が麻疹・風疹について流行時に職員全員で説明している。インフルエンザについては行政担当課から情報が届いており、食堂や玄関など子どもの目につく場所に掲示し注意喚起を促している。インフルエンザに罹患した際には、静養室や1階の宿直室を使用し蔓延を防いでいる他、施設では、インフルエンザ予防としてマスクの着用や消毒液、うがい、手洗いを励行するよう努めるなど、子どもの安全確保のための取組みを行っていることが確認できる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

災害時の対応体制は規定に定めている。年1回、消防署立会いの避難訓練では、終了後に消防署からの評価と講話がある。運動場擁壁の補修工事は、大がかりであったため業者に相談し、安全確保のために早期に実施している。子どもが遠方に実習や就職試験に出掛ける時は、プリペイドカード式のスマートフォンを所持するよう指導しており、連絡を取り合っている。備蓄リストの管理者は厨房の職員となっている。ただし、子どもや職員の日常生活における災害時の安否確認については、連絡網はあるものの安否確認方法等の検討はなく、今後の検討・取組みが望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

標準的な実施方法が業務マニュアルとして文書化している。このため、新入職員や配置変換の職員はマニュアルを参考に業務を行うことができ、働きやすさに繋がっている。施設全体では年度ごとに、職員は心理士や主任・施設長との面談を通して、自身の振り返り・日々の気付き、課題の検討に繋げる機会がある。施設長より、施設が子どもの養育・支援で重要視していることについて会議等で常に職員に伝えられ、子どもの人権擁護等に関しては年2回チェックリストを用いて調査を行っているなど徹底している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

標準的な実施方法は、各ホームの実情に合わせ見直しを行っている。自立支援計画の内容は、担当が他の職員の意見や子ども本人の意見を聞き作成している。小舎制への移行期であったことから、見直しについては各ホーム間での連携が見られ、子どもの生活のしやすさについて考えている。

小学生になると生活がホームが変わることから、対象となる子どもたちの環境変化に備える気持ちが職員に生まれ、標準的な実施方法見直しについては、見直しを視野に入れて日々の支援の振り返りを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		第三者 評価結果
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画書は、主任が責任者となり担当が作成を行っている。心理士や前任者のアドバイスをを受け、子ども自身の意見・希望を取り入れて作成しており、作成したものを子どもに見せることもある。1、3、5年後の先の見通しが持てるような目標設定をすることにより、子どもの「自分はこうなりたい」という内発的な動機付けに繋がっており、自分の将来を考える機会にもなっている。担当変更は最小限にし、子どもには課題・問題点だけでなく、良い所を伝えるように心がけている。支援困難ケースに対して、児童相談所との連携や外部講師からの支援を受けている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

毎月の目標は自立支援計画の短期目標と繋がるよう設定している。結果は担当が月末に評価を行い、主任・施設長に報告を行っている。自立支援計画の見直しは自立支援アセスメント表に沿って年2回としている。更に、計画作成後の著しい変化等で変更することがあり、変更点は赤ペンで書き込むなど工夫していることが確認できる。今後は、勤務の体制上必要であれば、計画の更新・変更についてホーム内だけでなく全職員に周知する手順を整えることを期待したい。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

第三者
評価結果

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

育成記録には、子ども一人ひとりの毎日の変化や言動などが細かに記載されており、職員は子どもが出入りできない執務室にて作業している。記録の書き方は院内研修を行いマニュアル化し、職員に対し主任・心理士は付箋を貼る他、不足している内容を書き出し職員の気付きを促すなど具体的な指導を行っている。情報共有のため、家庭や学校のことなど大切な情報は報連相記録に残し、必ず個人記録にも記載している。育成記録及び保存するメモリスティックの持ち出しは施設内のみに限っており、職員間で情報を共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

「文書の保存期間」にて文書記録についての規定が確認できる。また、廃棄する場合はシュレッダーにて処理することの他、保存は鍵付きの書庫に保管するよう定めている。フェイスシートは所定の場所に保存しており、持ち出しのルールがある。施設では「職員倫理綱領・職員行動規範」を作成しており、個人情報保護に関する基本指針を明示している。この文書は、各棟に設置しており、職員会議時に施設長が個人情報保護について指導し、職員への周知を図っている。また、社労士の研修では必ず個人情報保護に関する話がある。記録管理責任者は施設長であり、施設内のパソコンはインターネットに繋がる設定はなく、職員の作業用パソコンのセキュリティは業者に依頼している。また、職員は文書作成は自宅では行わず、施設内で行っており、情報漏洩予防に努めている。保護者には情報公開の同意に関して選択制の文書を準備しており、本人の意向が表明できる仕組みがある。子どもには、保護者の意向を汲んで学校へのテレビ取材に関しては特に注意している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○
【コメント】		
<p>子どもの権利擁護について、規定・マニュアルを整備している。職員会議において施設長が必ず子どもの権利擁護について講和している他、年1回、外部講師を招き施設にて内部研修を行っている。また、施設内のスキルアップ委員会でも議題に挙げ、職員の理解を深めるよう努めている。</p> <p>職員は“人権擁護のチェックリスト”を各自確認しており、“人権擁護のチェックリスト”をもとに、施設長が個人面談を実施している。</p> <p>育成計画書に、子どもの権利擁護に関する取組みを記載しており、養育・支援を実施している。子どもの思想や信仰は自由であり、浦上養育院で行われるお祈りの時間など強制していない。</p>		
(2) 権利について理解を促す取組		第三者 評価結果
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○
【コメント】		
<p>毎年児童会で、権利ノートの説明と読み合わせを行っていることが、小学生会、中学生会の議事録から確認できる。子どもの理解力に応じた話し方や低年齢の子どもには、臨床心理士が説明するなど工夫している。また、「浦上養育院ってどんなところ？」と題したしおりには、日常生活の権利がわかりやすく記されている。ただし、ほかの資料等を使って積極的に行うところまでは至っていない。</p> <p>カトリックの特徴を活かし、自分を愛し他人を思いやる気持ちを話している。また職員は、子どもと接するとき「あなたは大切な存在」であることを常に念頭に置き接している。シスターがいる信頼感や安心感から、子どもたちが甘えることができる環境がある。</p>		

(3) 生き立ちを振り返る取組	第三者 評価結果
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの発達状況や心理状況に応じて、家族のことや生き立ち等は担当職員が伝えており、必要に応じて、施設長や家庭支援専門相談員が対応している。事実を伝える時期等に関してミーティングで役割分担を検討しており、内容や状況によっては、児童相談所職員と連携し慎重に行っている。事実を伝えた後は、担当職員が目配り気配りし、子どもの様子を観察しフォローしており、主任や施設長も気に掛けている。</p> <p>一人ひとりの子どもの成長記録のアルバムを作成し、保護者の協力やに乳児院からの写真も含めまとめている。このアルバムは卒院時に手渡している。また、職員は時折子どもと一緒にアルバムを見ながら、成長してきた思い出を話している。</p> <p>小学校の事業で、生き立ちについて授業がある場合、それを期に生き立ちを振り返っている。また小学校や保護者と連携し、本人が自身の課題に取り組めるように支援している。</p>	
(4) 被措置児童等虐待の防止等	第三者 評価結果
<p>① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>現在まで、不適切なかかわりや被措置児童等虐待が疑われる事例はない。</p> <p>施設には被措置児童等虐待マニュアル、フローチャートがあり、職員会議で施設長が説明し職員は理解している。ただし、フローチャートに虐待などが疑われた場合の確認方法について、誰がどのようにして確認するか具体的には表記できていない。今後の課題として検討中である。</p> <p>就業規則には、虐待防止についての記載がある他、虐待防止委員会による勉強会を開催し、万が一の対応で慌てないよう、委員会全体で対応するよう取り決めている。また、第三者委員の連絡先もわかりやすい場所に掲示している。</p> <p>小学生会や中高生会で、不適切なかかわりや被措置児童等虐待について説明し、助けを求める手段も説明し子どもたちに周知している。アンケート調査も行っており、施設内における不適切なかかわりや被措置児童等虐待防止に努めている。</p> <p>職員は、職員のかかわり方で問題を感じた場合は、ヒヤリハットへの記入や棟リーダーに相談する仕組みがある。</p>	

(5) 子どもの意向や主体性への配慮	第三者 評価結果
<p>① A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>快適な生活に向け、各ホームの職員は子どもたちと一緒に、ルールを作っている。職員は子どもの状況を把握しながら、小遣い帳をつけ金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。金銭管理が難しい場合は職員が預かり、必要に応じて渡しながら金銭感覚を養うよう指導している。児童会でも、お金の使い方について説明している。</p> <p>休日やフリーデーなどの余暇の過ごし方は、子ども自身で決めており、施設内の友人と外出したり、好きなキャラクターのグッズ集め、昆虫飼育など性別や年齢に応じた趣味や興味に合った活動を支援している。</p> <p>職員は、子どもたちの生活における課題をアセスメント時に検討している。</p>	
(6) 支援の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
<p>① A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの入所前に、担当職員と施設長が面会している。また、児童相談所からの情報も含め、職員はフェイスシートを読み込み、受け入れる準備を整えている。乳児院から受け入れる場合は、事前に手紙のやり取りを行い、保護者の不安の軽減を図っている。</p> <p>施設で使う生活用品を揃える際には、本人に合ったサイズや好みに配慮している。また、名前を記入し温かく迎え入れるよう努めている。</p>	

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

子どものニーズを把握し、リービングケアの支援を行っている。洗濯やアイロンがけ、買い物や料理など一人暮らしに向けた訓練指導しており、訓練時は施設敷地内の居室を活用している。自立支援は、子どもの能力や背景に応じて、詳細に計画している。

時間の使い方、お金の使い方や貯め方、交通機関の使い方などの社会的ルールやマナーは、アルバイトを経験する中で習得している。

退所後の住所など、卒院児童票一覧にまとめている。卒院後、不安や悩みがあったとき、施設が相談を受けることを口頭で伝えているが、書面等も配付することが望ましい。

退所者に問題があり、警察や行政、病院などと連携し、アフターケアした事例がある。対処の詳細はアフターケアの記録に記している。卒院後の生活変化やトラブルは、会議で取り上げ職員は情報共有している。現在、アフターケア専門の配置の必要性を感じている。今後の取組みに期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

施設では子どもの入所時に家庭環境や現在の状況を把握するように努めている他、子どもの個人記録から、本人の支援目標や指導法などを知ることができる。職員は子どもの怒りや悲しみを否定せず受容することで、時間がかかっても自分の感情に気付けるように支援している。問題行動があっても、それが施設内でホッと安心できる環境下にあるため表出されたものであると受け止めている。また、それらの過程は個別記録に細かく記載されている。ただし、子どもへのアンケートは行っておらず、子どもと職員間の信頼を深めるためにも、子どもの声の収集について検討、実施を期待したい。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、児童会や配布資料から、施設での生活ルールを知ることができ、家庭的な環境の中でリラックスして過ごすことができるよう、おやつを食べる場所など工夫している。夜間の職員の居場所は伝えているが、子どもの状態に応じて添い寝するなど柔軟な対応を行っている。施設長は職員に、大人への不信感が強い子どもや支援を拒む子どもに対して、時間をかけて1日1日寄り添い、声掛けを積み重ねていくことの大切さを伝えている。施設ではこれらの取組みから、子どもたちは自分がここで受け入れられているという感情を持ち、欲求を表出しやすくなっていると感じている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は日常生活の中で支援が必要な場面で、子どもたち自身が互いの違いを認め、助け合いながら一つのことを一緒に行えるよう促しており、できる・できないではなく体験の共有を大切にしている。
さらに子ども同士の互いの理解が進んでおり、職員は他の子どものストレスに繋がらないよう、支援の方法等について本人に説明している。
支援は職員間で統一しており、できた時には十分に褒め、自分自身で“何のために行動するのか”を考えるよう促している。職員は、子どもの失敗・成功の体験を見守りつつ、子どもの心が満たされるような声掛けができるよう努めている

④	A11 発達の状態に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状態、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

サムエルホームでは、生活リズムが年齢に合ったプログラムとなっており、幼稚園に通園している子どもがいる。女子棟・ヨゼフホームでは、学習や娯楽の時間がある他、マキホームでは、退所後の生活が思い描けるような自立支援を行っている。各ホームには、年齢に応じた図書や玩具が用意されており、受験や進学に必要な資料も揃えている。ボランティアの受入れに積極的で、地域とのつながりも大切にしており、職員は戸外での遊びや娯楽室での自由時間、年中行事などが、子どもの豊かなコミュニケーション能力を育てると考え支援している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

子どもに社会性が身につくよう、公共交通機関の利用の指導や地域清掃への参加を行っている。生活場面では、当たり前のこととして挨拶や手洗い・入浴の方法などを教えている。職員が一緒に行くことで、子どもが見て学ぶ機会にもなり、みんなで行うことにより集団の力が働く良い場面もある。マキホームでは、内服薬の自己管理練習や電話対応を行い、できることには過度の介入をしないよう考えている。子どもたちは、新聞やインターネットを通して知識を身につける他、マナー教室を体験するなど、社会人になってからの他者との関わりを学ぶ機会となっている。

(2) 食生活	第三者 評価結果
① A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。 <input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。 <input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。 <input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。 <input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。 <input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	a <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

【コメント】

食事はヨゼフホーム・マキホームでは職員が調理しサムエルホーム・女子棟では調理員が調理して提供している。施設では献立作成の参考に嗜好調査を行う他、食事がいつでも適温で提供され孤食にならないよう配慮している。食堂の掲示物は絵や写真を用いて、子どもの興味を引く工夫がある。それぞれの年齢に合わせて、切り方や味付けの変更・当番制での食器洗い・栄養についての講話・調理実習やおやつ作りなどに取り組んでいる。厨房では、子ども一人ひとりの食べる量や好き嫌いを把握し、提供時におかずを事前に増減させており、子どもは嫌いな食べ物に挑戦して食べ、残食がゼロとなっている。

(3) 衣生活	第三者 評価結果
① A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。 <input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。 <input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。 <input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。 <input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。 <input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。 <input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	b <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

【コメント】

一人ひとりの子どもに合ったサイズ、季節に合った衣類を準備している。年齢に応じて、衣替えやアイロンかけ・洗濯などを子どもが行うことができ、職員は手伝いながら衣習慣の習得支援を行っている。衣類の購入の際は、本人と職員と一緒に買い物に行くことができ、肌の露出やデザインに配慮しながらも、衣服の選択は本人の個性として受け止めている。衣類の保管場所は各居室にある。また、羞恥心に配慮し、他の子どもの目に触れることがないように、下着は中庭のタオルで目隠しをした空間に干す工夫を行っている。

(4) 住生活	第三者 評価結果
<p>① A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設内は花や子どもたちの写真・作品が飾られているなど、明るい雰囲気です掃除が行き届いている。平日の掃除は職員が主に行い、休日は子どもたちみんなで行う等、柔軟に対応している。大掃除は帰省前に年2回行っている。小学生以上の居室は、個室か2人部屋であり相部屋であってもカーテンや家具で個々の空間を確保している。職員は、一人ひとりの子どもにとって落ち着ける空間を大切にするため、掃除・片付けの指導は最小限に留めている。このため、個人のスペースはぬいぐるみや玩具・本・壁飾りなどで個性や自由が感じられる空間となっている。</p>	
(5) 健康と安全	第三者 評価結果
<p>① A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>年1回健康診断を実施している他、毎月身体測定を行っている。また、幼児は毎朝検温をすることで、発育・発達状況を把握し、健康管理に努めている。インフルエンザなど予防接種は病院と連絡を取り実施している他、既往歴や予防接種など、母子手帳を確認している。</p> <p>重い疾患など健康上配慮が必要な場合は連携している医療機関と密に連絡を取り合い、心身の発達に関しては、ハートセンター、子ども医療センターと連携している。看護師が状況を把握し、職員へ必要な情報提供と注意等を促している。</p>	

(6) 性に関する教育		第三者 評価結果
①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

年2回、児童会で性教育を行っており、子どもから質問を受けたり、悩みを聞くなどし、年齢に応じた内容で受け答えするよう努めている。さらに毎年、外部から教師を招いて話を聞く機会を設けている。
 日常生活で、子どもの会話で気になる発言を聞いた場合、職員間で情報共有している。また、その言葉を子どもがどこで知ったか、理由など情報収集している。
 プライベートゾーンについて、入浴や着替えなどの日常生活で注意を払うべきことなどを伝えている。ただし、カリキュラムを準備しての指導までは行っておらず、今後の検討、取組みに期待したい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応		第三者 評価結果
①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもに言葉の暴力、態度など気になる言動があった場合、本人が置かれた環境を把握することで、言動に至った理由やそこにある不安を受け止めており、職員は本人に寄り添いながら、してはいけない行動だったことを伝えている。暴力等があった場合、自室でしばらく過ごし、周囲の子どもの安全を確保している。
 不適切な行動や暴力などで、職員のモチベーションが落ちたり、不安や不満をため込まないよう、人員配置や断続勤務への配慮、年代の近い職員同士で話せる環境づくりに努めている。
 さらに、不適切行為や暴力については児童相談所や関連機関と連携し、子どもに関わっている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

施設長は、問題発生の予防のため、ゆとりを持った人員配置を行っている他、職員数が手薄な時間帯など声掛けするよう心掛けている。
 ホーム編成時、子ども同士の相性も考慮しており、二人部屋や食事の席など配慮している。また、入所間もない場合や課題がある場合は、児童相談所のケースワーカーと情報共有している。
 子どもの様子は、職員間で情報共有しており、施設内で問題が生じた場合には、職員間は情報共有できる体制であることを子どもたちに伝えている。

(8) 心理的ケア

第三者
評価結果

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理ケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきプログラムを作成している。作成に関して、年2回ケース会議を行っており、年1回の保護者会の内容も取り入れている。
 心理的支援について、外部講師による内部研修会がある他、スーパービジョンも行っている。職員が書きやすい書式を用いて、本人がスーパービジョンを受けやすいよう工夫していることが確認できる。
 施設では臨床心理士を配置しており、子どもたちが心理療法を受けている他、児童養護施設協議会、学校、児童相談所など関連機関と連携している。

(9) 学習・進学支援、進路支援等		第三者 評価結果
①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○
【コメント】		
<p>子どもが落ち着いて勉強ができるよう、各自学習机を居室に整備している。施設での日課に学習時間を設け、小学生は夕方、中高生は夕食後に設定し、学習習慣が身につくよう支援している。学習場所は、自室か娯楽室を子ども自身が選択している。</p> <p>子どもの希望があれば、個別学習指導のボランティアを活用しており、地域の学習塾に通った例もある。また、参考書や問題集、辞書を共有スペースに配置し、子どもの学力に応じた学習支援ができるよう工夫している。</p> <p>職員は、子どもが帰宅したら、学校からの連絡事項やプリントなどの確認や翌日の時間割確認を一緒に行う他、宿題や次の日の授業で忘れ物がないように、子どもの力量に合わせながら支援している。</p> <p>学校の担任教師とは子どもの学力について密に連絡を取り合っている。学力の低い子どもには、能力に応じたドリルを準備するなど、職員が問題を作成し、より個別の学力に応じた学習支援を行い、学力の向上に努めている。</p> <p>障害を持った子どもには、特別支援学級へ通学できるよう支援している。</p>		
②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○
【コメント】		
<p>進路について、アセスメント時に子どもと一緒に将来について話し合っており、自立支援計画に加筆している。また、職員は子どもの力を見出し、子どもが将来をイメージしやすいよう、職員の実体験を交えながら進路の具体例を話している他、娯楽室に進路に関する資料や本などを置き、子どもたちは自由に読むことができるよう配慮している。</p> <p>高校進学、高校卒業程度認定試験、職業能力開発校進学の場合は措置延長の手続きを行うなど、その子に合った進路を選択し支援している。</p> <p>進路について、保護者や学校、児童相談所の意見を聞いており、学費の工面に関しては施設が保護者や関係者、支援団体などに相談している。特に学費を理由に子ども自身が進学についてあきらめないよう、奨学金やNPO団体の支援事業、身元保証人確保対策事業などの仕組みを子どもに情報提供しており、本人にとっての「最善の利益」を叶えるよう支援していることは特筆すべき点である。</p>		

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、子どもがアルバイトをすることは社会経験拡大のために許可している。社会のルールや仕組み、自分の行為に対する責任について、職員と話している。
 施設で、子どもの職場実習や職場体験に取り組むことはないが、学校と連携し支援している他、専門学校に通い、必要な資格は取得するよう積極的に奨励している。
 特別支援学校に通う子どもの場合、担当職員が学校に出向き情報交換しており、取得可能な資格を取るよう学校と連携し取り組んでいる。

(10)	施設と家族との信頼関係づくり	第三者 評価結果
①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所が決定した子どもと保護者には「入所に当たってのお願い」や「浦上養育院ってどんなところ？」等の資料を用いながら、施設について説明している。児童相談所との連携も説明し、信頼関係を構築できるよう図っている。今年度は施設長も親子関係再構築の支援体制に加わっている。
 主任児童指導員が、家庭支援専門員であり相談窓口でもあるため、保護者の不安な思いを相談受けたり、子どものために必要なことを一緒に考えている。施設では、可能な限り面会、外出、外泊を奨励している。ただし実施するにあたって、子どもの気持ちを優先している。
 面会や外出、外泊後の子どもの様子を担当職員が、様子を観察したり、子どもとの会話の中から不安がないか探っている。特に、一時帰宅した際には、子どもの言葉や表情に注意を払い、家での様子など聞き取り、詳細に記録している。情報を得た場合は、家庭支援専門員に報告し情報共有し、状況によってはスーパーバイザーに相談し、適切な支援ができるよう取り組んでいる。
 年1回保護者会を開き、家族交流について話す機会を設けている。保護者への連絡が困難な場合は、児童相談所へ家族交流について相談している。児童相談所との連携を密に行うことで、保護者の安定したサポートにつながっている。子どもの気持ちが揺らいだり、問題行動が起きた時も施設では子どもを支える体制がある。
 運動会や事業参観など学校行事、施設の行事など予定や情報を保護者へ随時知らせているなど、施設と家族の信頼関係を構築する努力は優れた点である。

(11) 親子関係の再構築支援	第三者 評価結果
<p>① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>家庭支援専門員と担当職員が中心に、親子関係の再構築に向けた見立てを行っている。その経過は会議や朝礼、交流支援計画により、全職員へ報告し状況を共有している。</p> <p>親子関係再構築に向けて、保護者の状況について児童相談所と密に連絡を取り、必要に応じて保護者との面談を行っている。児童相談所から得られる保護者の情報に限りがあるため、要対協、市社協、病院など関係機関から保護者に関する情報やアドバイスを受け、子どもの自立支援に向けたアセスメントを作成している。</p> <p>児童相談所から、子どもとの面会許可依頼の連絡を受け、保護者と家庭支援専門員が保護者と面談し、面会や外出など親子関係の再構築について、口頭で注意事項を伝えている他、「保護者の皆さんへ」と題したプリントも渡し、誓約書を作成している。更に、面会や外出、外泊後は、保護者に子どもの様子を尋ねることで、主任児童指導員は保護者の思いを汲み取っており、保護者との対話を大切にして支援に努めている。このように、親子関係の再構築についてさまざまな取組みがあることは特長である。</p>	